

平成28年度

家族や地域の大切さに関する作品コンクール

写真&手紙・メール

作品募集中

[応募期間]

7/1(金)

9/5(月)



やっぱり、家族っていいね。



[11月の第3日曜日]

11月20日(日)は「家族の日」

[家族の日の前後各1週間]

11月13日(日)~26日(土)は「家族の週間」

やっぱり、家族っていいね。家族や地域で支える子育て

写真部門



テーマ
1

子育て家族の力 (子育て家族の絆、子供と深める家族の絆)

(例) 家族の団らん、パパの育児、3世代同居家族の様子、親子で一緒に楽しみながら何かに取り組んでいる日常の様子(食事作り、動植物の世話、楽器・スポーツの練習、語りなど)、出産を控え家族で準備している様子等、子育て家族の絆やあたたかさ、ほほえましさを表しているもの

テーマ
2

子育てを応援する地域の力 (地域ぐるみで子育て支援)

(例) 地域と子供達とのふれあいの様子、地域での子育てイベント(お祭り、親子教室、子育てひろば、子供と他世代との交流、地域の見守り活動など)、ワーク・ライフ・バランスの取組(定時退社し子育てイベントへの参加など)、子育てサークルの様子等、地域や社会で子育てを応援しているという姿を表しているもの



審査員

カメラマン
渡部陽一氏 ほか

応募資格

小学生以上の者(プロカメラマンは除く)

応募要領

作品には、以下の事項を明記の上、郵送、電子メール、またはPCサイト(内閣府ホームページ)にてご応募ください。

- ①応募テーマ、②作品タイトル、③簡単な解説(エピソード)(100字程度)、
- ④郵便番号、住所、電話番号、⑤氏名(ふりがな)、⑥性別、⑦児童・生徒は学校名・学年、 般は年齢・職業

※2人以上を撮影した写真でご応募ください。

※応募は一人1点で、デジタルカメラ、フィルムカメラまたは携帯カメラで撮影した、カラーまたは白黒プリント、もしくはデータでの応募とします。携帯電話での画像添付による電子メールでの応募も可能です。

賞

募集テーマごとに、最優秀賞1点、優秀賞5点以内。表彰状と副賞。
いずれも内閣府特命担当大臣(少子化対策)表彰。

平成27年度 最優秀賞受賞作品

写真、手紙・メール両部門ともに、その他の入賞作品は内閣府ホーム

テーマ
1

「四つ葉のクローバー」

京都府・42歳・女性



作品のエピソード

うちの一番大事な宝物は四姉妹です！イクメンのパパは子供たちに本の読み聞かせをしたり、外で元気よく遊んだりしてくれます。四女はダウン症ですが、社会全体が心も体もバリアフリーになっていくよう願っています。

テーマ
2

「うんとこドッコイショ！」

島根県・68歳・男性



作品のエピソード

男性高齢者グループ「グランパ in 雲南」では、絵本・紙芝居・マジック・あそび歌で地域の子育てを応援しています。今日は、山間地域の女性グループが廃校になった小学校で開いている「谷笑学校子ども教室」で絵本「おおきなかぶ」の読み語りにあわせて実演中。「おおきなかぶ」はなかなか抜けません。グランパと子供たちが力を合わせて「うんとこドッコイショ！」ようやくかぶは抜けました！子供とグランパの最高の癒しタイムです。

家族や地域の結びつきの大切さが改めて見直されている今だからこそ、子育て家族の絆と、それを支える地域での子育て支援の大切さを見つめてみませんか。あなたのあたたかい気持ちを作品にして、ご応募ください。



手紙・メール部門

テーマ

子育てを家族で支え合うことの大切さ、家族への感謝などの思いを伝える内容のもの、または、子育てを地域や社会が見守り応援する様子やその大切さを訴える内容のもの

(例) 子供から親・祖父母へ、兄姉から弟妹へ、夫から妻へ、妻から夫へ、親から子供へ、子育て応援している社長・上司・同僚から子育て社員へ、子育てを応援する地域の方から子育て中の人へ など

応募
区分

1.小学生の部 2.中学生・高校生の部 3.一般の部

応募
要領

作品は、200～400文字程度で、以下の事項を明記の上、郵送、電子メール、またはPCサイト(内閣府ホームページ)にてご応募ください。

- ①応募区分、②作品タイトル、③郵便番号、住所、電話番号、④氏名(ふりがな)、⑤性別、⑥児童・生徒は学校名・学年、一般は年齢・職業

※携帯電話による電子メールでの応募も可能です。

賞

募集区分ごとに、最優秀賞1点、優秀賞5点以内。表彰状と副賞。いずれも内閣府特命担当大臣(少子化対策)表彰。



「家族の日」「家族の週間」について

内閣府では、子どもと子育てを応援する社会の実現に向けて、子育て家族やその家族を支える地域の大切さについて理解を深めてもらうために、平成19年度から11月第3日曜日を「家族の日」、その前後各1週間を「家族の週間」と定め、この期間を中心として理解促進を図っています。

ページ「家族の日」「家族の週間」をご覧ください。 <http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>

小学生の部

「おじいちゃんとおばあちゃん的笑容」

島根県 小学6年生 女子

私のおじいちゃんはがんとをわずらっています。治りょうのために強い薬を飲んで苦しさで戦っています。

おばあちゃんは車いすに乗っています。車いすだと生活するのも大変なのに、おばあちゃんはヘルパーさんに手伝ってもらって家事もしています。

おじいちゃん達の家と私の家は、福岡と島根という遠い距離にあります。なので、二人と会うのも、年に数回です。

私がおじいちゃん達といられる時間は限られています。おじいちゃん、おばあちゃんは、食事の時も、買い物の時も、家で話をしている時も、いつも笑って接してくれます。嬉しそうに、私の話を聞いてくれます。

元気ではないはずの二人が私達と過ごす時間を、大切にしてくれているんだと強く感じます。体

がきついの、色んな所に連れて行ってくれます。おじいちゃんは、食べきれないほどの果物を買って来てくれます。おばあちゃんは、いつもめずらしい本を用意してくれます。

そんな二人に私ができること。二人で一生懸命生活して、きっと大変なことがいっぱいあるのに、私達を応援してくれる優しいおじいちゃん、おばあちゃんに私ができること。それは、私が楽しく笑って話をすることだと思います。友達や勉強、学校のこと。今、頑張っている陸上のこと。日々の生活のことなど、少しでも多くのことを話してあげたいです。

私は、二人が「楽しい」「うれしい」と思えることを増やしていきます。なぜなら、おじいちゃん、おばあちゃん的笑容をたくさん見て、私も一緒に笑える時間を増やしたいからです。

中・高校生の部

「母の存在」

静岡県 高校1年生 女子

私に父はいません。母と弟と私、いわゆる母子家庭です。しかし今までの中で何となく生きてきました。今も私立の高校に通わせてもらいながら部活動もやっています。これは全ては母のおかげです。夏休みになればプールにつれていってくれるし、行事にはすべて来てくれます。

私に夢を与えてくれたのも母でした。母は看護師をしています。私は仕事を母を初めて見た時、患者さんに対して笑顔で優しく接していき、難しそうなお機械を使いこなす母がとてまにかよく見えました。それから私は母のような看護師を目指すようになり、今も夢に向けて勉強を続けています。

このように、私の中の母はとても大きい存在です。母の子じゃなかったら出来ない事もたくさんあったし、この夢を持っていなかったのではないかなと思います。母の子で本当に良かったです。辛い事があったとしても母とだったら乗り越えられると私は思っています。この感謝の気持ちは日頃の生活の中でなかなか言う機会がないので母のためにも自分の夢を叶えて、恩を返していけたらと考えています。

そして、食費を少しでも減らせるようにと庭で育てている野菜を届けてくれる祖母、たくさん笑ったからおすそわけと言って野菜や果物を持ってきてくれる地域の方々にも感謝しています。私たち家族はこうした方たちに支えられています。これはとても幸せな事だと日々感じます。

お父さんがいないからかわいそうというのは違います。私は今の生活がとて楽しくて幸せです。この気持ちが伝われば良いなと思います。そして私を幸せに育ててくれる母にいつもは恥ずかしいけど言いたいです。

「お母さん、ありがとう。」

一般の部

「パワースポット？」

奈良県 41歳 女性

「あーあ、パワースポット行きたいわ」と私が言うのと、夫と長女がすかさず「ここやん、我が家というジェスチャーをした。

それなら私のパワーが吸い取られてるんだなと、お出かけしたい気分まで吸い取られてその日は家で過ごした。我が家がパワースポット？ 私は一人っ子で、両親共働き。また高3の時両親は離婚した。

中3で大阪から奈良に引越した。その頃から両親共家に戻らない日が多くなった。大阪の学校だったのもあり近所に知り合いもおらず、広い家に一人きりだった。私にとっては家は大きな箱だけで安心しただけで寂しい場所ではなかった。

実家はいいモダンじゃないなと思いつつ家族を持ち、不安が強かったこと、最近結婚16年にしてやっと夫にぶつけることができた。

「もうわかったから泣くな」

「泣くなって言うな！泣かせろー」

不安であることをぶちまけられる夫が、実はずっとそばにいてくれたことに気づき、家族に初めて甘えることができた。悪い思い出も優しい経験に塗り替えることができた。

夫も私も不器用だけど、どうにか格好をつけて子どもたちにとっていい家族でありたいと思っていた。でもみっともなくも家に居続ける姿を見せることって難しいけど大切なことだと思った。

どうやら私にも我が家がパワースポットだったようだ。

やっぱり、家族っていいね。



家族の日 家族の週間

応募期間

平成28年7月1日(金)～9月5日(月)

※郵送の場合は、当日の消印有効

応募点数

「写真」「手紙・メール」それぞれ一人1点まで

表彰

最優秀作品は、平成28年11月20日(日)開催予定の「家族の日」フォーラム(三重県松阪市)において表彰する予定です。

作品集

入賞作品は作品集にまとめ、入賞者及び関係者各位に配布します。また、内閣府ホームページ「家族の日・家族の週間」に掲載します。

応募先

応募要領については中面をご確認ください。

【郵送の場合】

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1

中央合同庁舎第8号館8階

内閣府 子ども・子育て本部

「家族や地域の大切さに関する作品募集事務局」

【電子メールの場合】

kazokunohi28@cao.go.jp

【PCサイトの場合】

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>

(内閣府ホームページ「家族の日 家族の週間」)

その他

1. 審査の結果は、入賞者のみ本人あてに通知します。
2. 応募作品の一切の権利は、内閣府に帰属します。
3. 応募作品は一切返却しません。
4. 応募は未発表かつオリジナルの作品に限ります。
5. 応募者の個人情報の取扱いについては、「家族の日」「家族の週間」の展開に必要な範囲で利用します。応募者の同意を得ずに、利用目的を超えて利用したり、第三者に開示することはありません。
6. 電子メールによる応募の際、添付ファイルがウイルスに感染されていると作品が事務局に届きませんので、予めご了承ください。
7. 入賞者の作品に明記した情報は、「家族の日」「家族の週間」等を展開する中で、必要に応じ、利用、提供します。また、入賞作品は、内閣府ホームページ、「家族の日」フォーラム等で展示します。

【審査基準】

- (1) テーマ性(写真、手紙・メール部門共通)
 - ① 募集テーマ「家族や地域の大切さ」に則している
 - ② 明るい夢や希望が感じられる
 - ③ 作者独自の家族観・地域観がうかがえる
- (2) 表現力(写真、手紙・メール部門共通)
 - ① テーマを十分に表現し伝えている
 - ② 見る人、読む人を引き付ける魅力を備えている
 - ③ 作品としてのクオリティ
 - ④ 作品のオリジナリティが伝わってくる
- (3) 総合力
(写真部門)
写真とタイトル及びエピソードの調和がとれている
(手紙・メール部門)
 - ① 文章がわかりやすく、読み手が理解できる
 - ② 構成にまとまりがある
 - ③ 意味を十分に理解している

主催

内閣府

お問合せ

内閣府 子ども・子育て本部

☎ 03-6257-3090

(平日10時～18時)

電子メール：kazokunohi28@cao.go.jp